資料３

【子どもの意見聴取】

教育計画策定のためのアンケート調査を活用した分析

１　子どもの意見聴取の目的

（仮称）子ども条例について検討するうえで、子ども本人が現在どのようなことを感じながら暮らしているか聞き取り、参考とするため、子どもに関連する施設・団体を利用する子どもに対して意見聴取を行った。

２　子どもの意見聴取の手法

意見聴取の対象施設・団体のうち、既存のアンケート調査などが活用できる場合はその調査結果を参考するとして、小学校、中学校、高等学校については、教育計画策定のためのアンケート調査を活用し、子どもの現状を読み取るものとする。

３　教育計画策定のためのアンケート調査の概要

調査の概要については以下のとおり。なお、今回参考とするのは、小学校、中学校、高等学校に関連する小学生調査、中学生調査、青少年調査とする。

(1) 調査対象

・小学生調査・・・・全市立小学校の４年生及び６年生（各学年１クラス）
・中学生調査・・・・全市立中学校の２年生（学校規模に応じて３～４クラス）
・青少年調査・・・・市内にお住まいの平成９年９月３日～平成 14 年４月１日生まれの方
・一般市民調査・・・市内にお住まいの 20 歳以上の方

(2) 調査方法

小学生・中学生調査　　学校を通じて一斉配布・一斉回収
青少年・一般市民調査　郵送による配布・回収

(3) 有効回答数など

	配　布　数	有効回答数	有効回答率	回収数
小学生調査	1,260 通	1,168 通	92.7%	1,170 通
中学生調査	1,159 通	1,093 通	94.3%	1,093 通
青少年調査	400 通	119 通	29.8%	1,350 通
一般市民調査	3,000 通	1,246 通	41.5%	

４　参考とする設問

教育計画策定のためのアンケート調査内容について、これまで（仮称）子ども条例検討専門部会において確認した自己肯定感、相談・救済、子どもの意見表明・参加、居場所に関する設問を抽出し参考とする。なお、抽出した関連する設問については、まとめを作成するにあたり精査したものとしている。

【小学校】≪小学生調査≫

項目	設問番号
自己肯定感	問 47・49
相談・救済	問５・７・８・11・45・46
子どもの意見表明・参加	問 11・17・32
居場所	問 20・23・24・25・31・33・34

【中学校】≪中学生調査≫

項目	設問番号
自己肯定感	問 47・49
相談・救済	問７・９・10・11・45・46
子どもの意見表明・参加	問 11・17・34
居場所	問 22・25・26・27・33・35・36

【高等学校】≪青少年調査≫

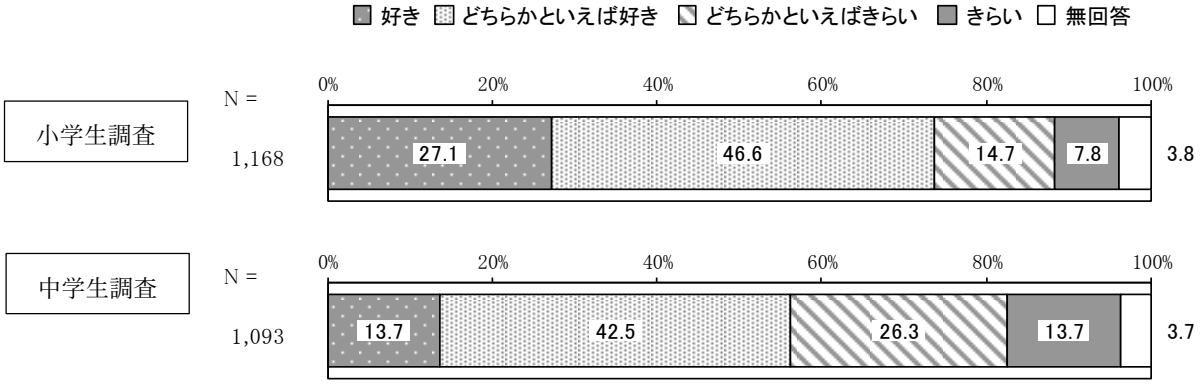
項目	設問番号
自己肯定感	問 11
相談・救済	問６・９・10・38・42・43・44・45
子どもの意見表明・参加	問 29・30
居場所	問８・28・32

５　教育計画策定のためのアンケート調査結果からの分析

(1) 子どもの自己肯定感について

＜小学生調査　問 47＞、＜中学生調査　問 47＞

・自分のことが好きですか。（○は１つ）



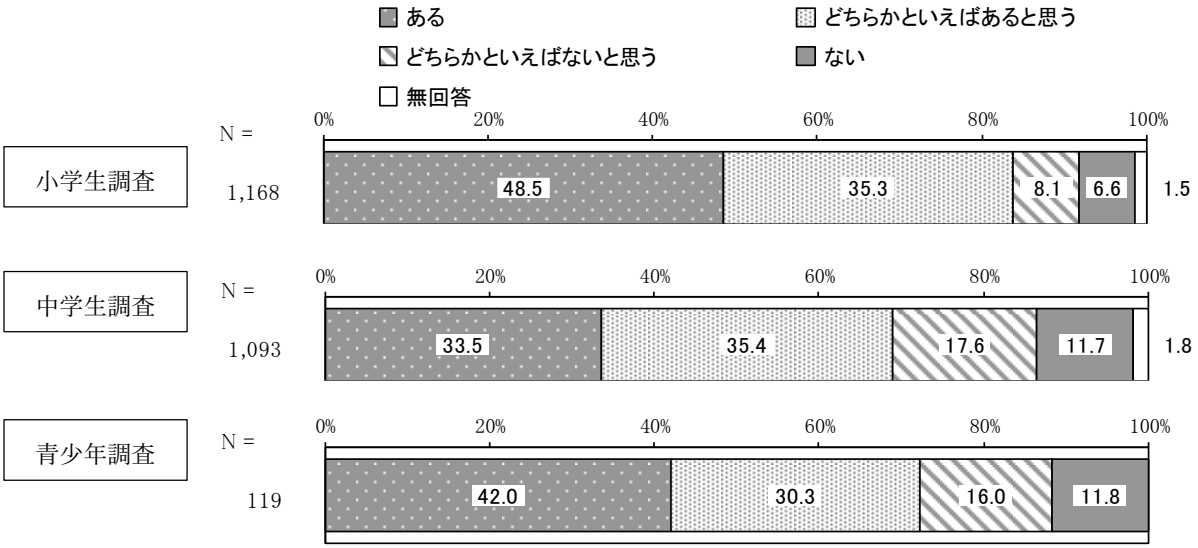
小学生は、「好き」と「どちらかといえば好き」をあわせた“好き”の割合が 73.7%、「どちらかといえばきらい」と「きらい」をあわせた“きらい”の割合が 22.5%である。一方、中学

生は“好き”の割合が 56.2%、“嫌い”の割合が 40.0%となっている。

自分のことが好きかどうかという回答は、自己肯定感の指標となる。中学生になり、他者を意識し比較するようになったため自己肯定感が低下するものと考えられる。

＜小学生調査　問 49＞、＜中学生調査　問 49＞、＜青少年調査　問 11＞

・自分に自信のもてること（よいところ）はありますか。（○は１つ）



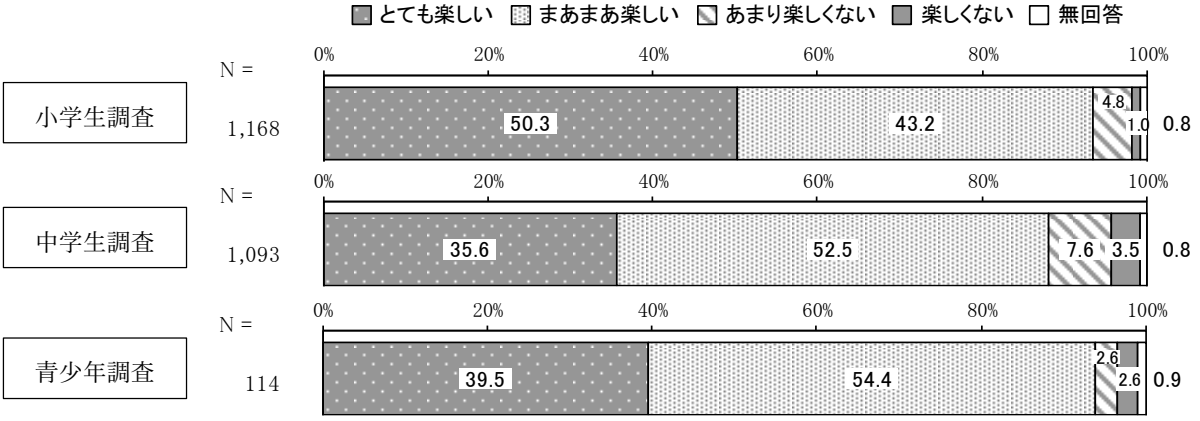
「ある」と「どちらかといえばあると思う」をあわせた“あると思う”の割合が、小学生、中学生、青少年世代では、それぞれ 83.8%、68.9%、72.3%となっている。また、「どちらかといえばないと思う」と「ない」をあわせた“ないと思う”の割合が、小学生、中学生、青少年世代では、それぞれ 14.7%、29.3%、27.8%となっている。

自分に自信があることは、自己肯定感をはかる一つの指標であり、小学生世代では約 15%、中学生・青少年世代では、約 30%の子ども達が自己肯定感が低い状況にある。

(2) 子どもの悩み事及び相談・救済に関する項目について

＜小学生調査　問５＞、＜中学生調査　問５＞、＜青少年調査　問６＞

・学校は楽しいですか。（○は１つ）



「とても楽しい」と「まあまあ楽しい」をあわせた“楽しい”の割合が、小学生、中学生、青少年世代でそれぞれ、93.5%、88.1%、93.9%である。また、「あまり楽しくない」と「楽しくない」をあわせた“楽しくない”の割合が、小学生、中学生、青少年世代でそれぞれ、5.8%、11.1%、5.2%となっている。

どの世代でも約90%の子ども達が学校を楽しいと感じているが、小学生、青少年世代では約５%、中学生世代では約 11%の子どもが、何かしらの理由で学校を楽しくないと感じている。

＜小学生調査　問７＞、＜中学生調査　問９＞

・楽しくないと思ったのはどんな時ですか。（○はいくつでも）

小学生及び中学生調査では、学校を楽しくないと思ったのはどのようなときか、質問項目があり、主な理由としては以下のとおり。

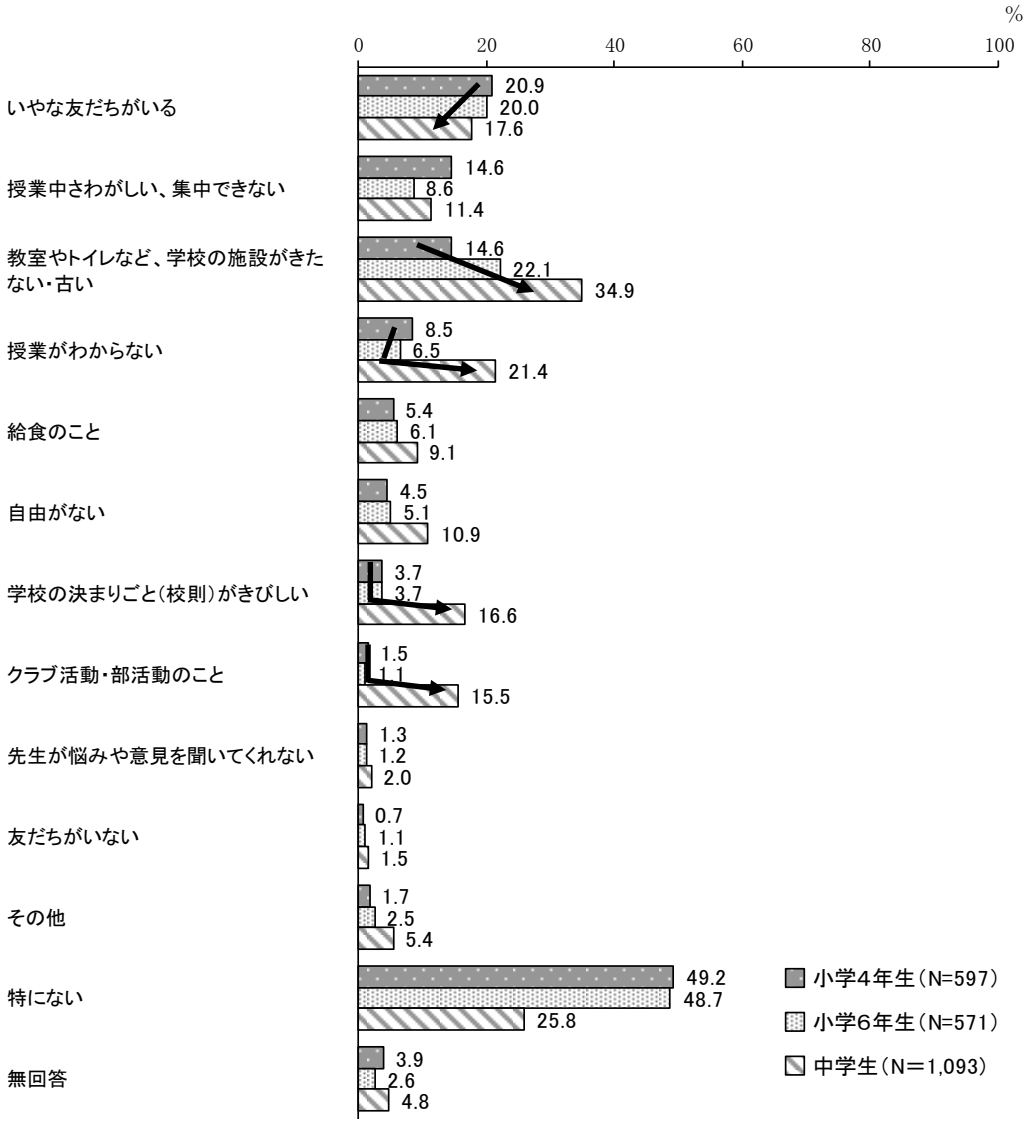
【小学生調査】…「学校生活の中でやりたくないことが多い時」54.4%、「授業がおもしろくないと感じた時」45.6%、「勉強したくない時」42.6%

【中学生調査】…「授業がおもしろくないと感じた時」56.2%、「勉強したくない時」51.2%、「学校生活の中でやりたくないことが多い時」43.0%

また、留意すべき理由として、「いじめられた時」という項目があり、小学生調査では25.0%（68 人中）、中学生調査では5.8%（121 人中）が回答している。

＜小学生調査　問８＞、＜中学生調査　問 10＞

・学校で困っていることは何ですか。（○はいくつでも）



学校で困っていることが「特にない」のは、小学４年生 49.2％、小学６年生 48.7％、中学生 25.8％となっており、小学生の約半数、中学生の約７割は何らか困っていることがあると回答している。

困っていることの上位には、「いやな友だちがいる」、「授業がさわがしい、集中できない」、「教室やトイレなど、学校の施設がきたない・古い」、「授業がわからない」などがあげられている。

「いやな友だちがいる」ことは、いじめにも関連する事柄とも考えられる。世代が上がるにつれて多少の減少傾向は見られるが、いずれにせよ、子ども達が安心して学べる環境が必要である。

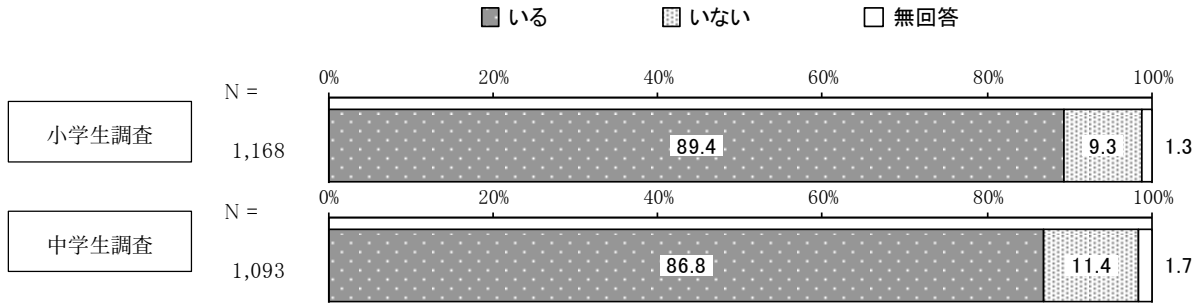
＜青少年調査　問９＞

・どんな悩みや心配事がありますか。（○はいくつでも）

青少年世代の悩みとしては、「勉強や進学のこと」の割合が 73.1％と最も高く、次いで「就職のこと」の割合が 28.6％、「お金のこと」の割合が 22.7％となっており、勉強や進路について不安を感じている。

＜小学生調査　問 45＞、＜中学生調査　問 45＞

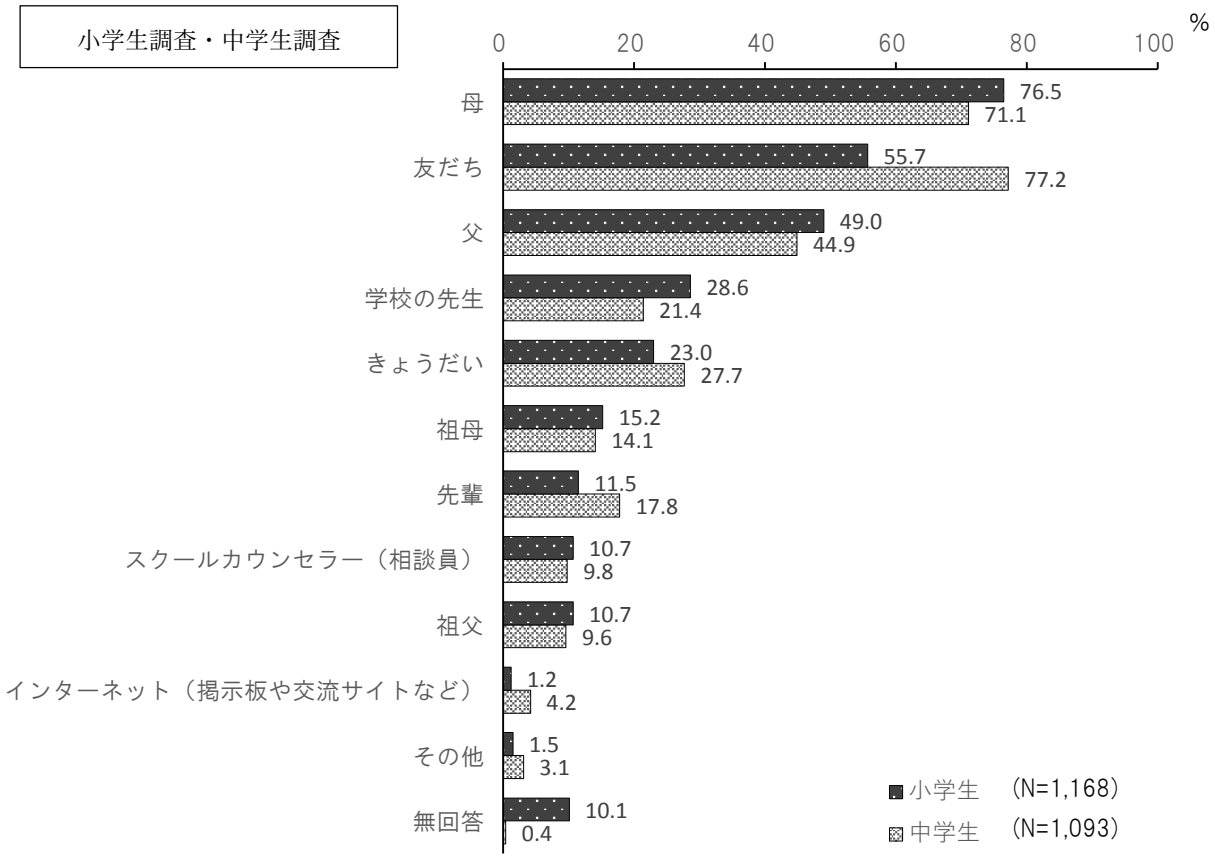
・いやなことやつらいことがあったとき、相談できる人がいますか。（○は１つ）



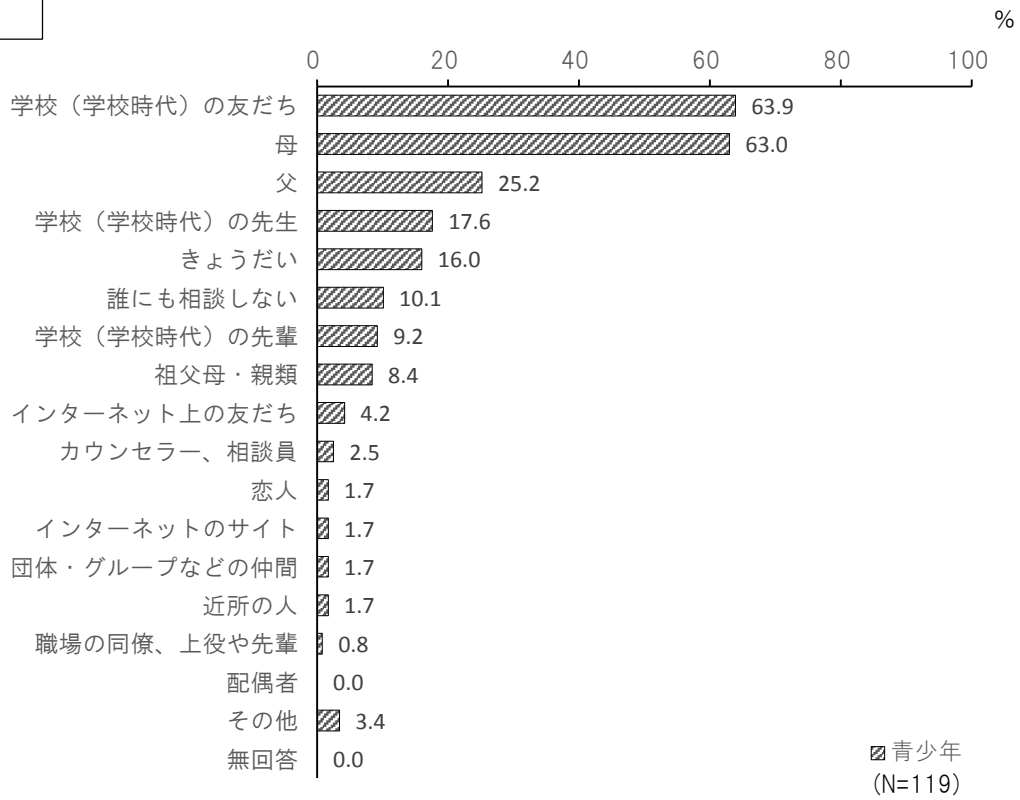
相談できる相手が、「いない」と答える子どもが小学生世代では 9.3％、中学生世代では 11.4％おり、子ども達の約１割は悩みがあっても相談できていない状況がある。

＜小学生調査　問 46＞、＜中学生調査　問 46＞、＜青少年調査　問 10＞

・相談できる人は誰ですか。（○はいくつでも）



青少年調査



どの世代でも「友だち」及び「母」の回答が突出しており、その後に「父」、「学校の先生」、「きょうだい」と続いている。また、「カウンセラー・相談員」に相談するという子どもも一定数いる。

青少年世代については、「誰にも相談しない」という子どもが 10.1%いる。小学生・中学生世代も同程度の割合で相談できる人がいないため、子ども全体の１割ほどは、何か悩みや不安があったとしても、誰にも、どこにも相談できない状況にある。

＜青少年調査　問 38＞

・いじめや不登校などの問題を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

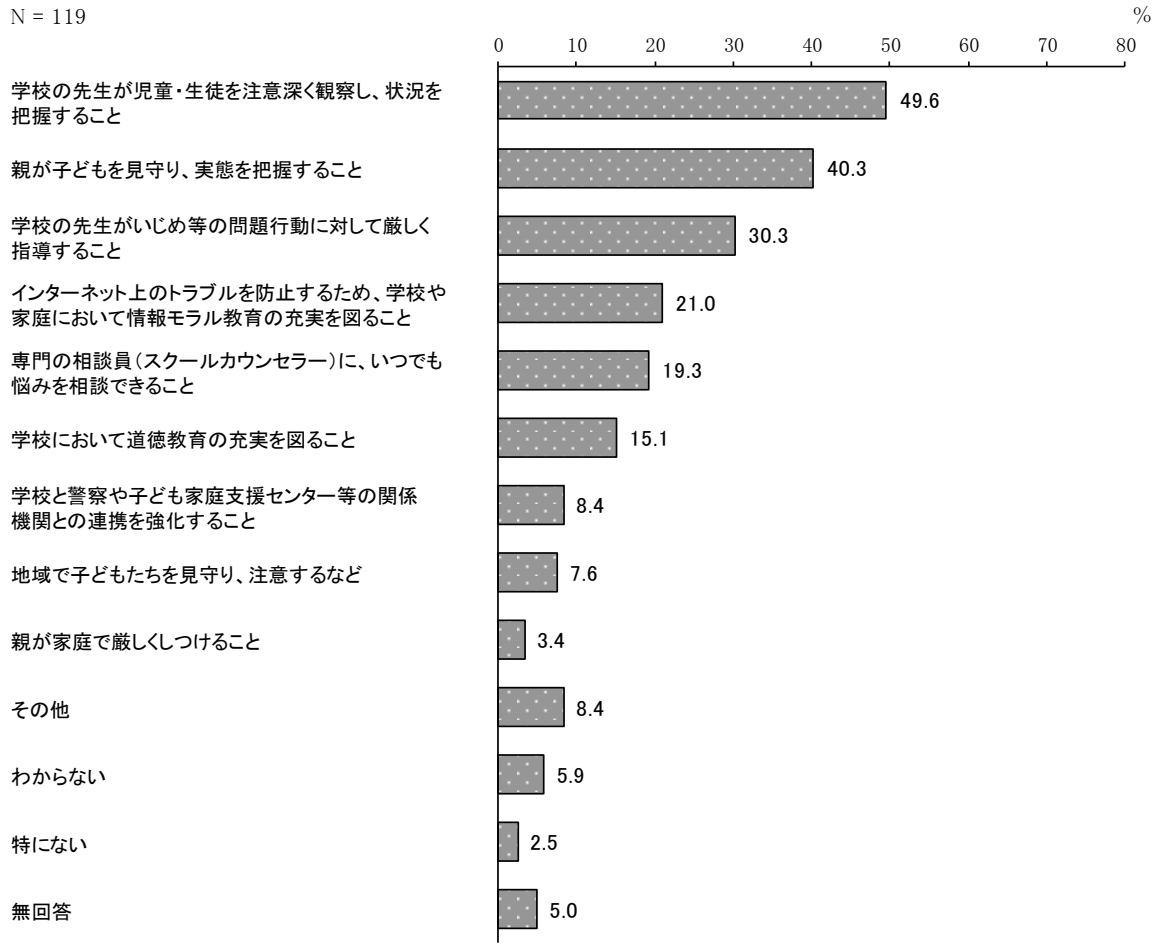
いじめや不登校などの問題を防止するために必要なことについて、青少年世代から回答を得ている。現に高等学校に通学していたり、中学生世代の子ども達と年齢も近いことから、真に必要な項目が選択されていると考えられる。

詳細については、次ページのグラフのとおりであり、「学校の先生が児童・生徒を注意深く観察し、状況を把握すること」、「親が子どもを見守り、実態を把握すること」、「学校の先生がいじめ等の問題行動に対して厳しく指導すること」が上位の回答となっている。

このことから、保護者や子どもに関わる施設は、子ども達を見守り、状況・実態を把握していくことが大切な役割であるといえる。

また、「専門の相談員（スクールカウンセラー）に、いつでも悩みを相談できること」が必要との回答も約 20%あり、子どもがいつでも悩みを相談できる体制が求められている。

青少年調査



(3) 子どもの意見表明・参加について

＜小学生調査　問 11＞、＜中学生調査　問 11＞

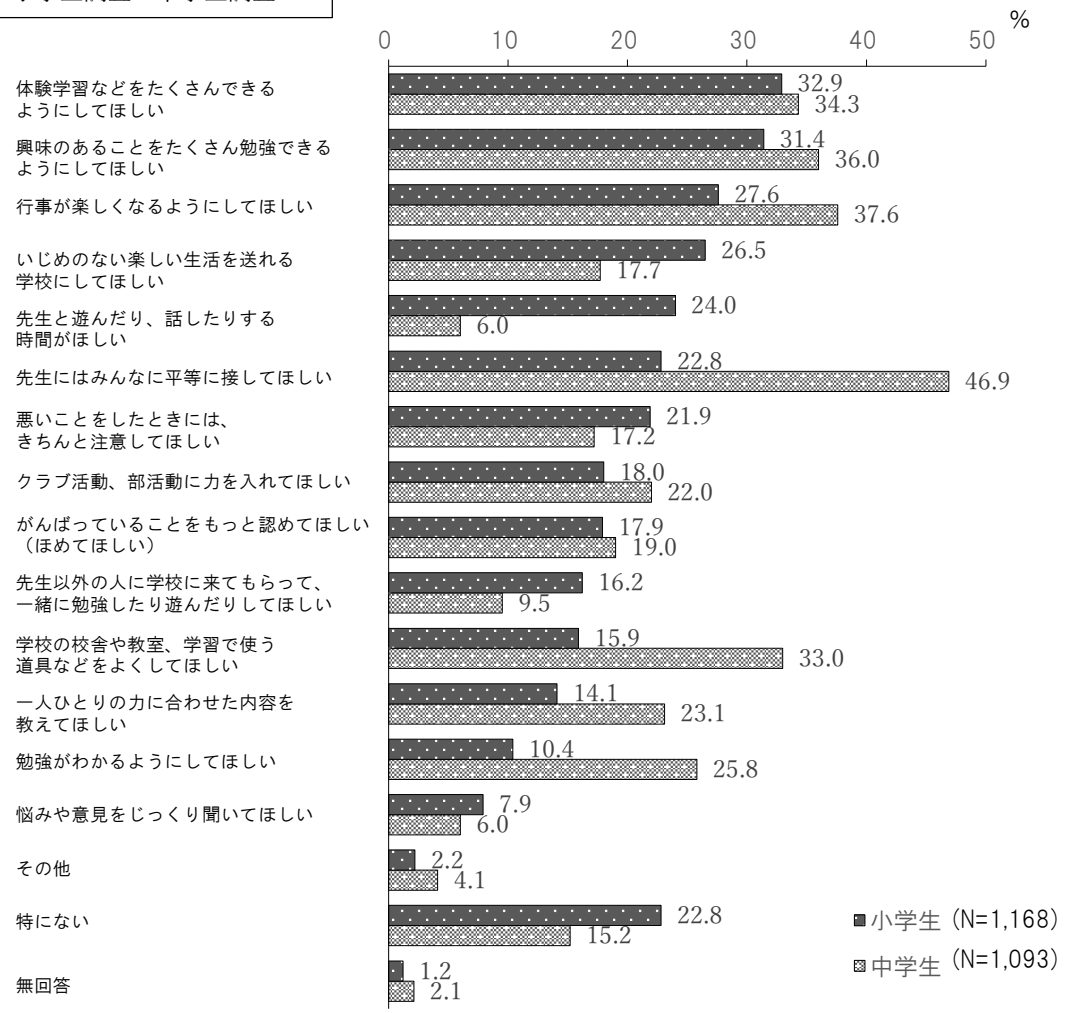
・学校や先生に望むこと（してほしいこと）は何ですか。（○はいくつでも）

小学生調査及び中学生調査において、共通して上位の回答は、「体験学習などをたくさんできるようにしてほしい」、「興味のあることをたくさん勉強できるようにしてほしい」、「行事が楽しくなるようにしてほしい」であった。

また、小学生調査と中学生調査において、回答数に大きな開きがある項目もあった。小学生は中学生に比べて「先生と遊んだり、話したりする時間がほしい」と望んでいる。中学生は小学生に比べ、「先生にはみんなに平等に接してほしい」、「学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい」、「勉強がわかるようにしてほしい」と望んでいる。小学生及び中学生は、学校の先生に平等に見守ってほしいと感じていると考えられる。さらに小学生は、先生とのコミュニケーションを望んでいると言える。

「特にない」、「無回答」の回答割合をみてみると、残りのほとんどの子ども達が毎日通う学校に対して、様々な意見を持っているということである。学校に限らず、子ども達の意見を聞く意識が醸成されることが望まれる。

小学生調査・中学生調査



＜小学生調査　問 17＞、＜中学生調査　問 17＞

・学習の仕方について、もっとこうしてほしいと思うことがありますか。（○はいくつでも）

学習の仕方について、「わたしの考えや意見をもっととり入れてほしい」と答えた小学生が 8.6%、中学生が 3.6%いる。主体性を持ち、自分の意見を発信し、参加していくという考えを持つ子どもが少ないと考えられる。子ども達が、意見表明・参加の意識を持てずにいることが課題であるといえる。

＜小学生調査　問 32＞、＜中学生調査　問 34＞

・以下のような地域の行事などに参加していますか。（○はいくつでも）

＜青少年調査　問 29＞

・最近１年間で、次のような活動に参加したり、行ったりしたことがありますか。（○はいくつでも）

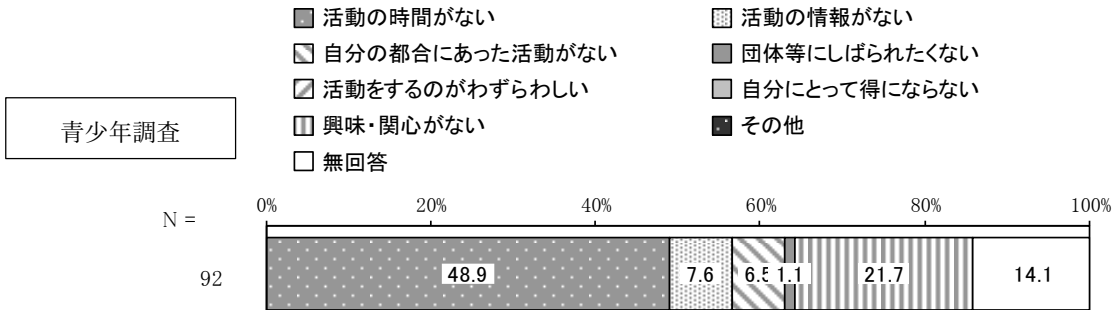
小学生及び中学生が参加する地域の行事については、ともに「お祭り」が突出して多く、小学生の 76.0%、中学生の 66.3%が参加している。

また、「参加していない」、「無回答」の割合から、小学生では 83.3%、中学生では 72.4%が何かしらの地域の行事に参加しているといえる。

一方、青少年調査では、「参加していない」の回答が 77.3%となっている。青少年の地域・社会での活動に参加しない理由は以下のとおりである。

＜青少年調査　問 30＞

・地域・社会での活動に参加しない主な理由は何ですか。（○は１つ）



「活動の時間がない」の割合が 48.9%と最も高く、次いで「興味・関心がない」の割合が 21.7%である。

子ども達は学校生活に加え、習いごとや塾、部活動などにより地域・社会での活動に参加する時間が限られているといえる。また、地域と子どもがつながるためには、子どもにとって興味・関心がある取組が求められる。

(4) 子どもの居場所づくりについて

＜小学生調査　問 20＞、＜中学生調査　問 22＞

・習い事や塾に通っていますか。（○はいくつでも）

小学生の約９割、中学生の約８割は何らかの習い事に通っている。小学４年生では「スポーツチームやクラブ（野球やサッカー、水泳など）」が最も多いが、学年が上がるにつれて割合は低下し、「学習塾」に通う割合が高くなる。中学生では 62.8%が「学習塾」に通っている。

	小学生（N=1,168）	中学生（N＝1,093）
習い事をしている割合	88.9%	81.9%

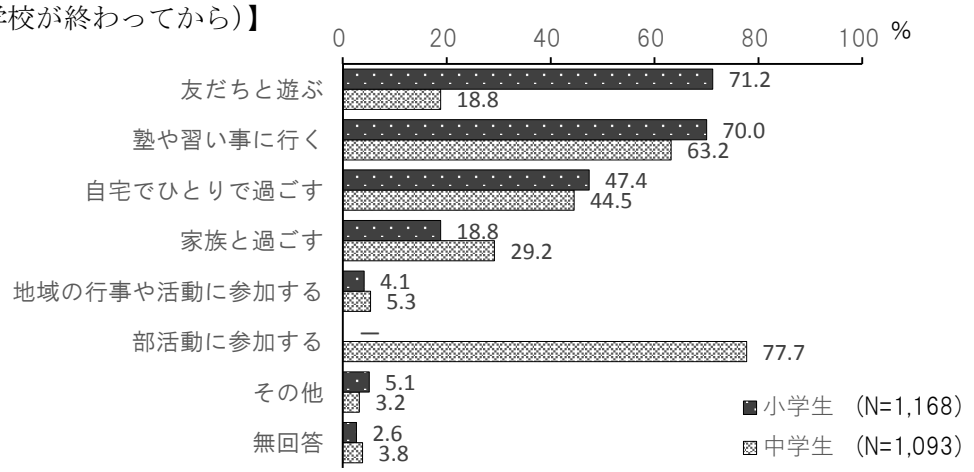
※「習い事をしている割合」は、「特に通っているものはない」と「無回答」を除いた割合。

＜小学生調査　問 23＞、＜中学生調査　問 25＞

・学校の授業以外では、主にどうやって過ごすことが多いですか。（○は（ア）～（カ）ごとに１つずつ）

小学生調査・中学生調査

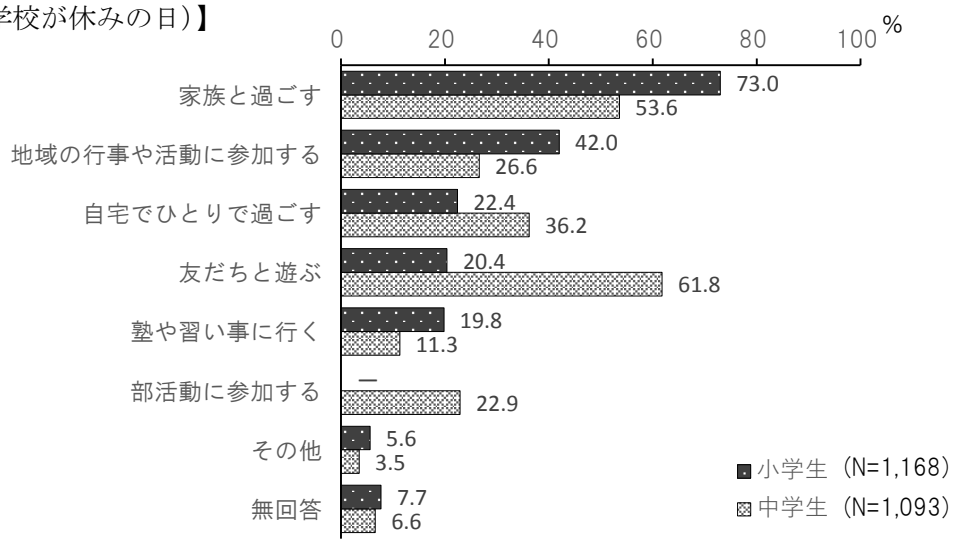
【平日（学校が終わってから）】



子ども達の放課後の過ごし方について、小学生世代は「友だちと遊ぶ」、「塾や習い事に行く」の割合が高い。また、中学生世代は「部活動に参加する」、「塾や習い事に行く」の割合が高くなっている。小学生・中学生世代ともに、「自宅でひとりで過ごす」という場合も多い。

小学生調査・中学生調査

【休日（学校が休みの日）】



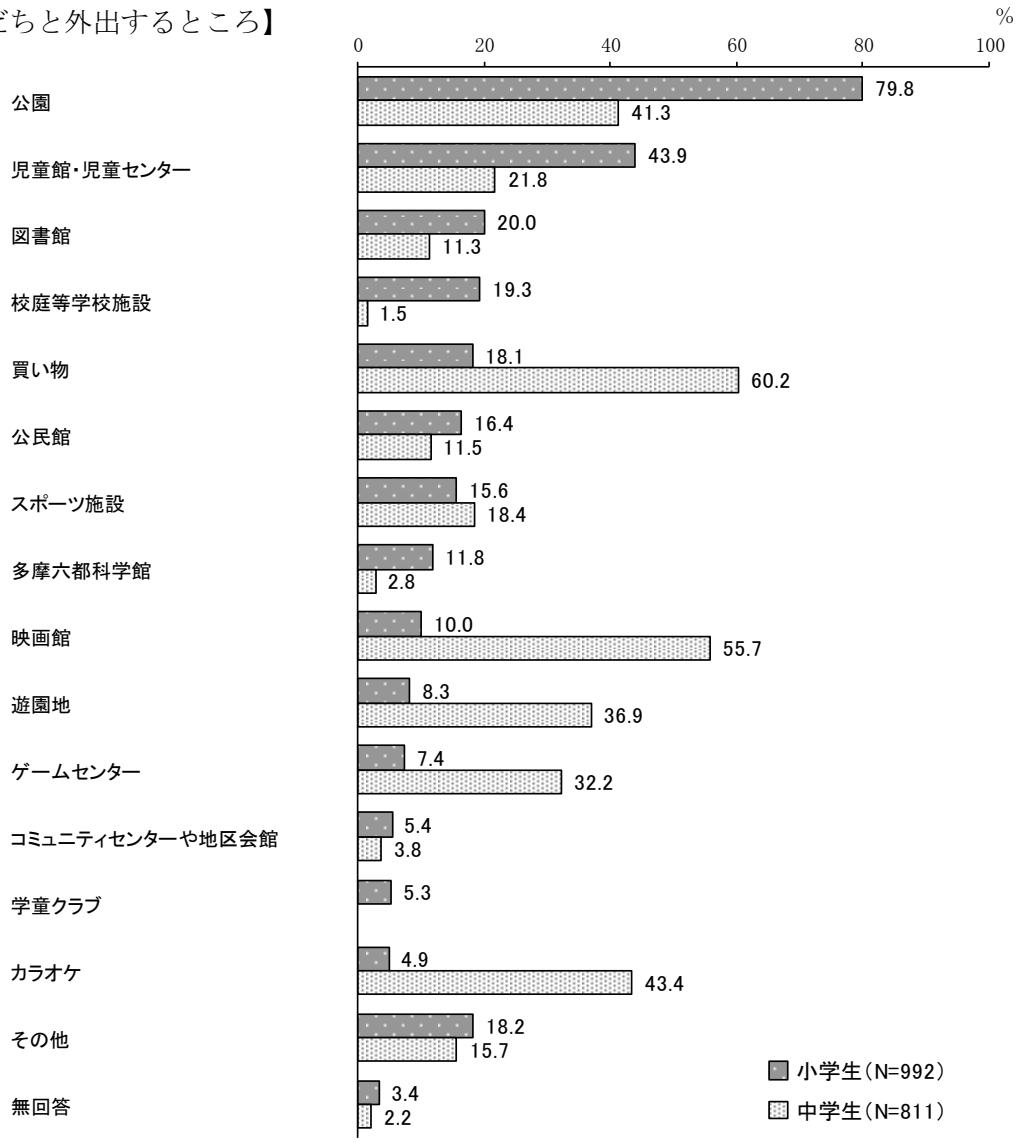
子ども達の休日の過ごし方について、小学生世代では「家族と過ごす」、「地域の行事や活動に参加する」と答えた割合が高い。中学生世代では「友だちと遊ぶ」の割合が一番高く、その後に「家族と過ごす」、「自宅でひとりで過ごす」が続く。

＜小学生調査　問 24＞、＜中学生調査　問 26＞

・友だち同士で外出するときは、どのようなところに行きますか。（○はいくつでも）

小学生調査・中学生調査

【友だちと外出するところ】



平日及び休日の子ども達の過ごし方を見てみると、部活や習い事・塾などの特定の場所で過ごす以外では、友だちと遊んで過ごす子どもの割合は多い。子ども達が楽しく友人と過ごせる居場所のニーズが高いと考えられる。特に小学生世代では、公園、児童館・児童センターなどに友だちと外出する割合が高く、公共施設を居場所としている子どもが比較的多い。

＜小学生調査　問 25＞、＜中学生調査　問 27＞

平日または休日に「自宅でひとりで過ごす」と答えたひとにたずねます。

・何をして過ごしていますか。（○はいくつでも）

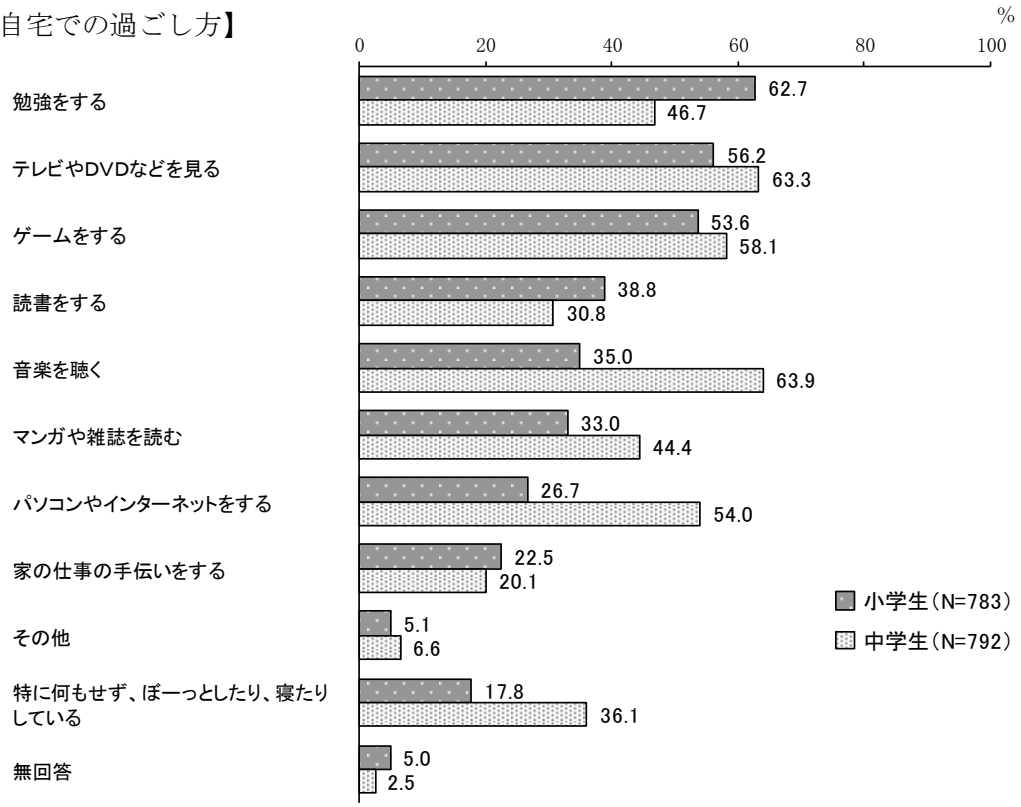
「自宅でひとりで過ごす」と答えた子ども達の過ごし方について、小学生世代と中学生世代で大きく差がある項目は、「音楽を聴く」、「パソコンやインターネットをする」、「特に何もせず、

ぼーっとしたり、寝たりしている」となっており、どれも中学生世代での割合が高くなっている。自宅では、子ども達が思い思いの過ごし方をしていることがうかがえる。

「特に何もせず、ぼーっとしたり、寝たりしている」と回答した子ども達については、日頃の疲れを癒すための行動だと考えられる。子どもが安心してゆっくり休める居場所というものも必要であると感じた。

小学生調査・中学生調査

【自宅での過ごし方】



＜青少年調査　問８＞

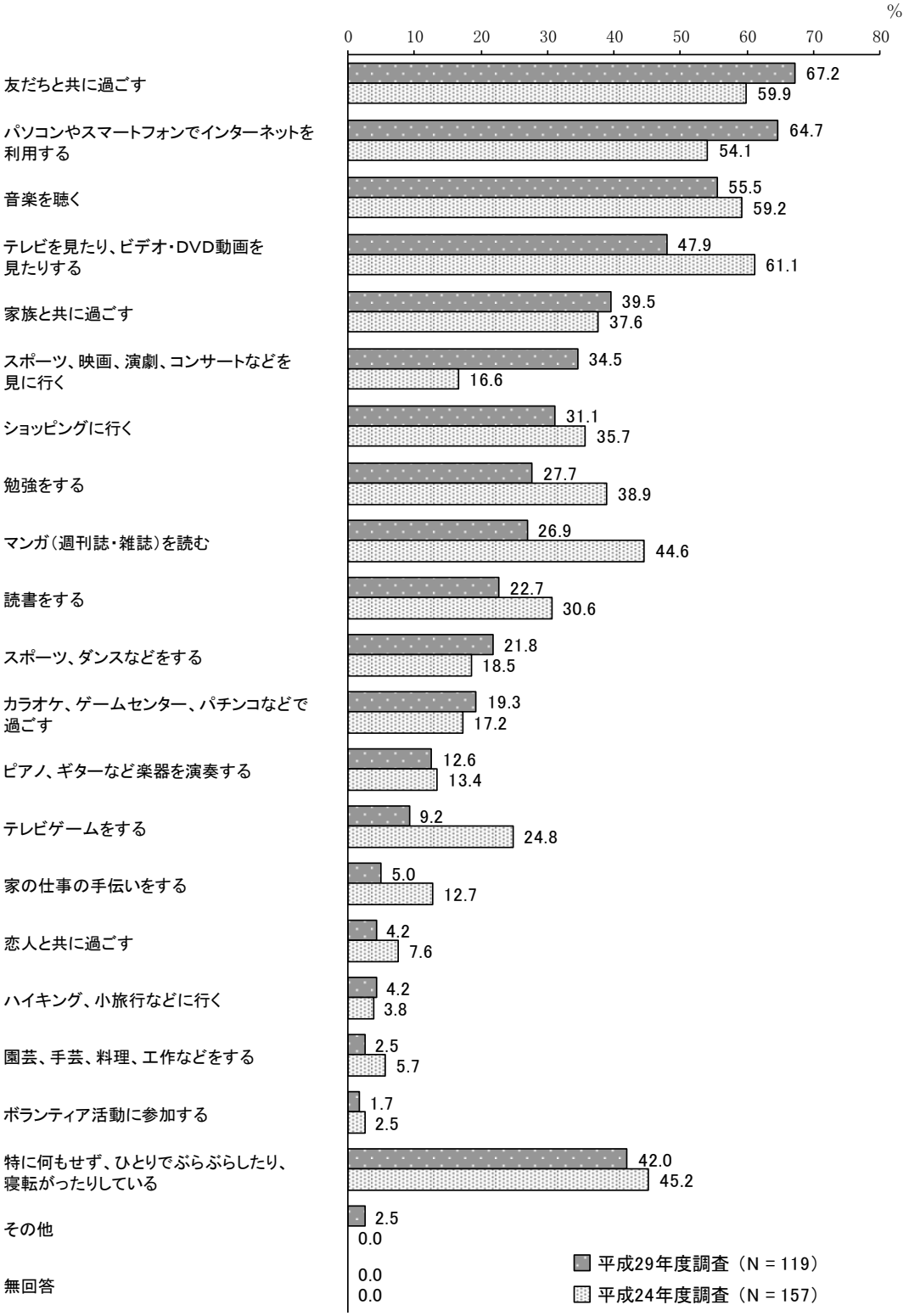
・自由な時間をどのように過ごすことが多いですか。（○はいくつでも）

青少年の自由な時間の過ごし方としては、「友だちと共に過ごす」の割合が 67.2%と最も高く、次いで「パソコンやスマートフォンでインターネットを利用する」の割合が 64.7%、「音楽を聴く」の割合が 55.5%となっている。詳細は、次ページのグラフのとおりである。

項目の順位については、中学生世代と近くなっている。また、「特に何もせず、ひとりでぶらぶらしたり、寝転がったりしている」の割合も 42.0%あり、小学生・中学生世代の「特に何もせず、ぼーっとしたり、寝たりしている」の項目と同様のことがいえる。

青少年調査

【自由な時間をどのように過ごすことが多いか】

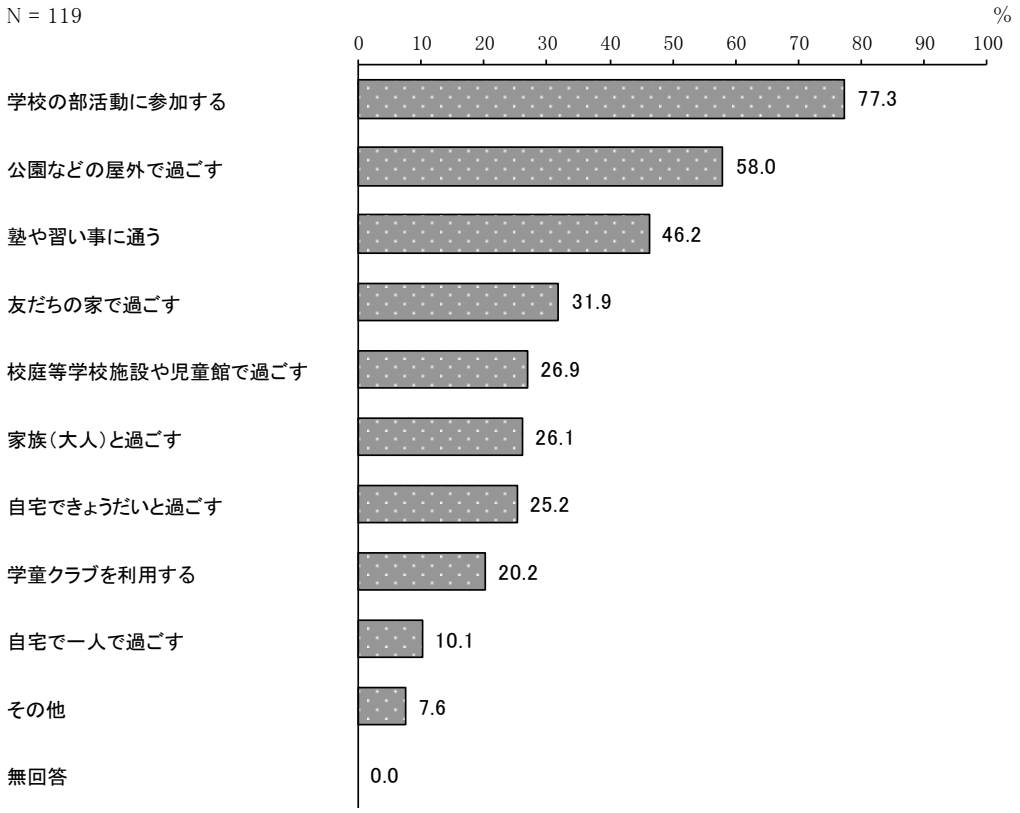


＜青少年調査　問 32＞

・放課後は子どもはどのように過ごすのが望ましいと思いますか。（○はいくつでも）

子どもが放課後どのように過ごすことが望ましいか、青少年世代から回答を得ている。現に高等学校に通学していたり、中学生世代の子ども達と年齢も近いことから、真に子どもが望むであろう項目が選択されていると考えられる。

青少年調査



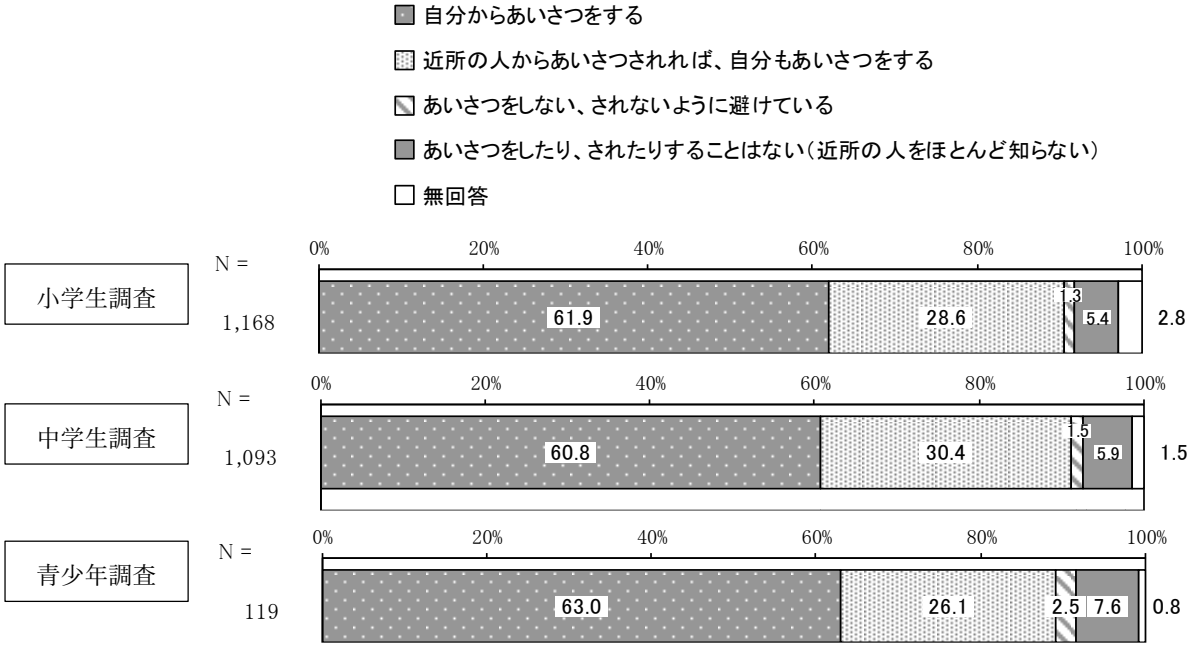
「学校の部活動に参加する」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「公園などの屋外で過ごす」の割合が 58.0%、「塾や習い事に通う」の割合が 46.2%となっている。

部活動への参加や塾や習い事に通うことについては、子ども達自身も望んでいるものと考えられる。公園などの屋外で過ごすことは、屋内での遊びよりも自然が感じられるところで、健康的に体を動かして過ごしたいということだと捉えられ、のびのびと遊べる時間・場所が必要であるといえる。

また、「自宅で一人で過ごす」の割合は 10.1%であり、子ども達自身はあまり望ましい過ごし方ではないと考えている。

＜小学生調査　問 31＞、＜中学生調査　問 33＞、＜青少年調査　問 28＞

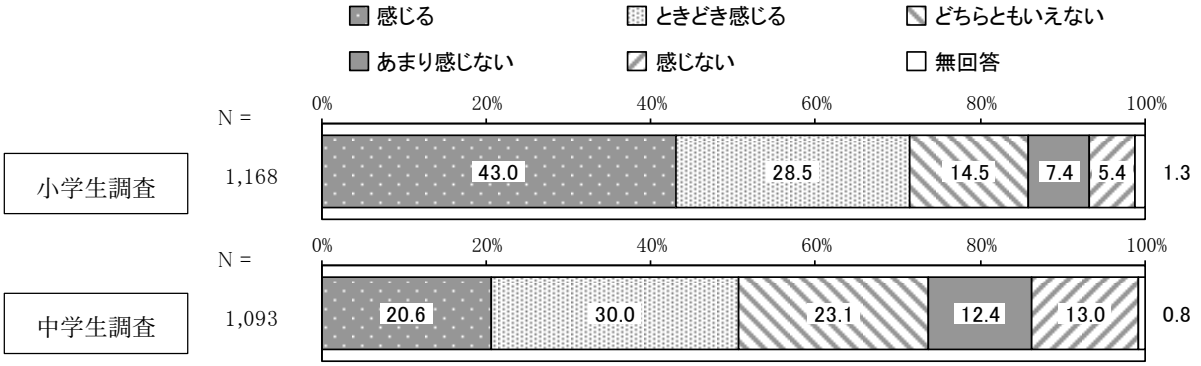
・普段、近所の人とはあいさつをしますか。（○は１つ）



地域に住む近所の人たちにあいさつをするかという質問に対し、どの世代でも約 60%が「自分からあいさつをする」と答えている。「近所の人からあいさつされれば、自分もあいさつする」を含めると、どの世代でも約 90%が地域の人たちとあいさつを交わしており、子ども達が地域とのつながりを持っていることが分かる。

＜小学生調査　問 33＞、＜中学生調査　問 35＞

・あなたの住んでいる地域では、地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じますか。（○は１つ）

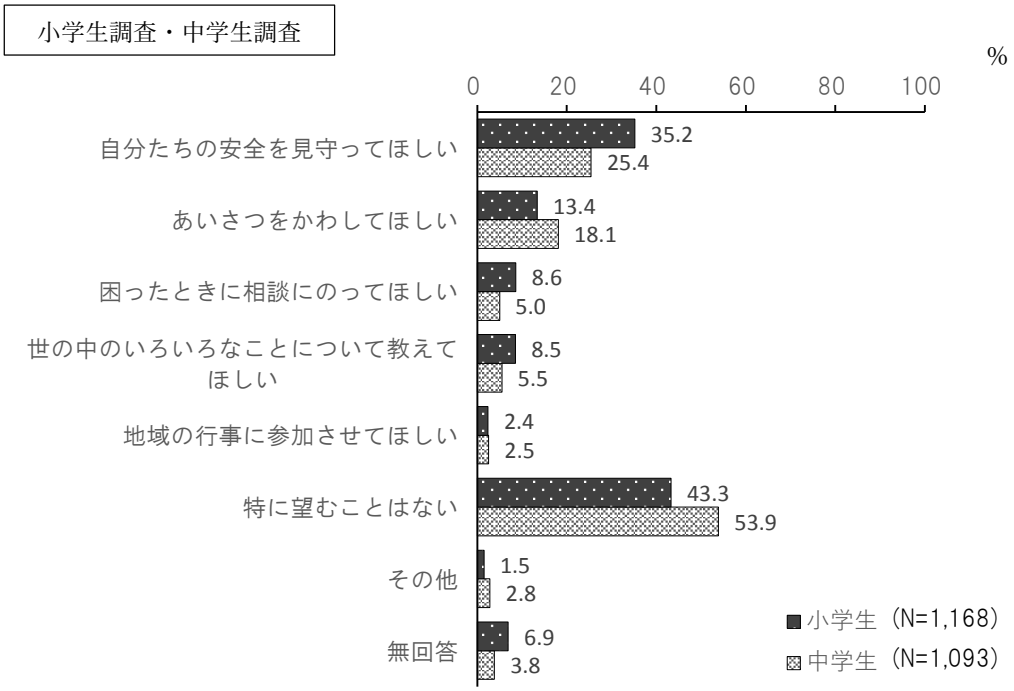


地域の見守りを「感じる」と「ときどき感じる」をあわせた“感じる”の割合が、小学生世代では 71.5%、中学生世代では 50.6%である。また、「あまり感じない」と「感じない」をあわせた“感じない”の割合が、小学生世代では 12.8%、中学生世代では 25.4%である。

小学生世代では、あいさつ運動や登下校時の交通安全の取組などにより、地域の見守りを身近に感じていると考えられる。

＜小学生調査　問 34＞、＜中学生調査　問 36＞

・あなたの住んでいる地域の大人に望むことは何ですか。（○は２つまで）



小学生・中学生世代ともに「特に望むことはない」の割合が最も高く、次いで「自分たちの安全を見守ってほしい」、「あいさつをかわしてほしい」の割合が高くなっている。

特に望むことはないと考えている子ども達もいるが、一方で、地域の見守りが必要であり、また、あいさつを交わすなどのコミュニケーションを望んでいる子ども達もおり、地域に住むおとなは子どもの育ちを見守る役割を担うことが求められ、地域が子どもにとって安全で安心できる居場所であることが望まれる。